花ぢしき

玉くしげ　幷ハ

開化領を名ごそ

[V. 30]

PL 788
.4
.G4
1654
vol 30
copy 1
Asian
Japan
Cage

200455302

内侍のつかさをこれもくそびの
うへなもいうるうん親くそひそそもうへのれそろ
ざよそちらくまつそせうりそれべまりてさやうの
まぢらひよつのて心らりかこびんうさそともあう
ハ中将（科好）こそぞん（こそぞん）もかれもうそンぐこつけて心をそ給そぐそ
さうそうんよ所方いうくそうさ面うてぐ
そよもうくそひぐめくれをかはどもなく
あそれそてまそぐそひひひそへうう
そ面よこまうそんとうけひ給へぐもあくさう
ようのてやすうあうそのそきめべそ給もあぐし
そうまぢそ給それべまぐこおもしえ

それぞれあげうつりもひごとにまねぶ
ともうつくしうすめりべきなめやもか
しもず。うづくもくいうつくしげう。いとうか
しくされ夜どもをうしろは。るん
きるんともこそうつくしわさくん。せの人うまれ
男の有様をうちもぞあつ。夕ぐれの空の表げる気色
とくうつくしてこゝ(むノ)
大宮ノぞくこうもおる三月廿日ばのうつぎこまで
まひ色のれぞ。るうつくしう行よやつれて。れいうう
うつくしおひうつくしいうくやさまて
もやされておりするをくいうちうて
こなうる。宰相の中将(夕方ノ宰相ノ家ニ於テ高声ニ)
の今すうつくしう夜やう

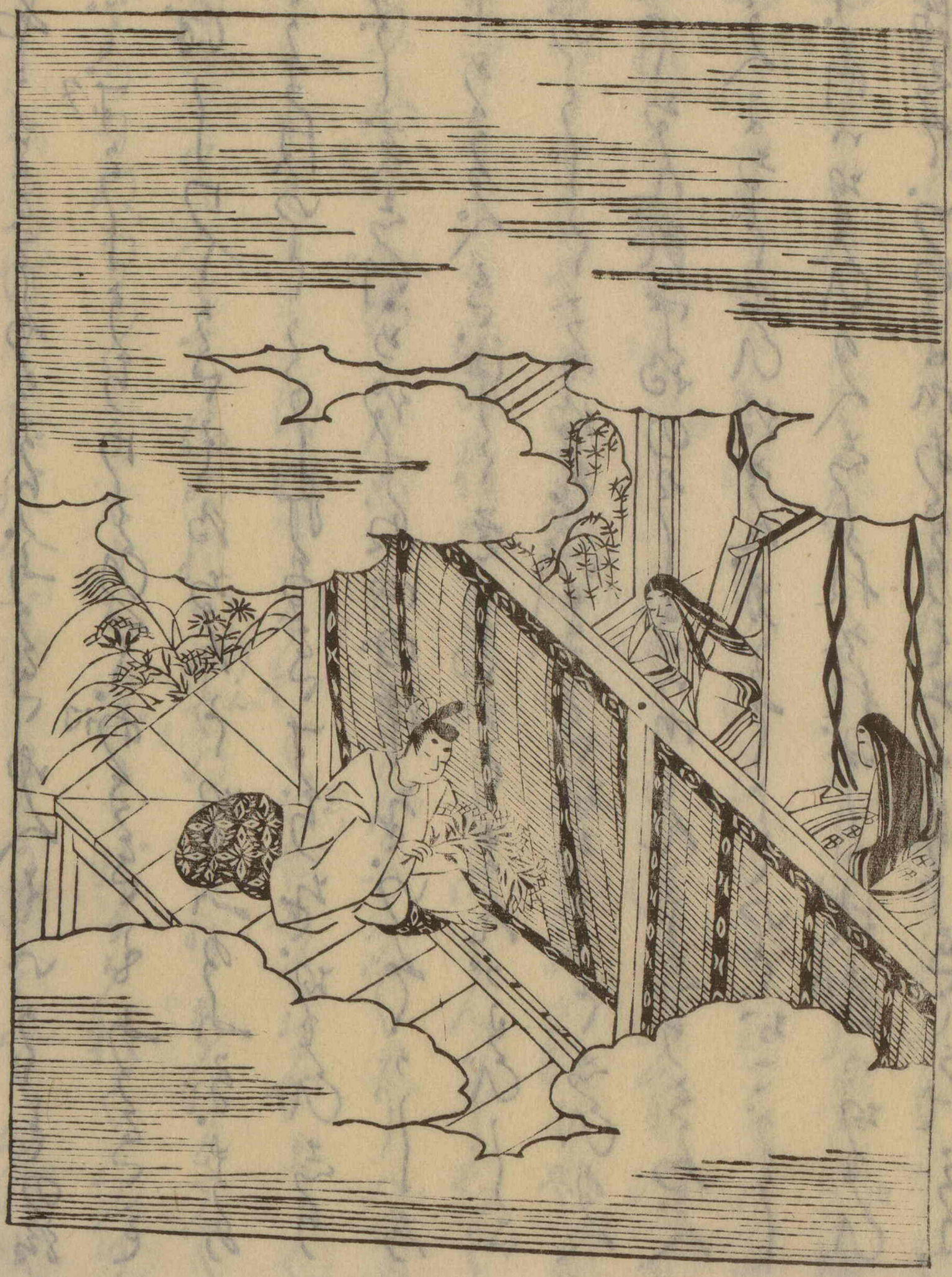
（タグ引ノタヲクゴリの誤カ）

（蘭花ノ）

（地カ）

（タノ）

ゆへいるとうとて・とうとうとうと



（雲）
れのうらひを・ぶりてよのつるやう
もぶるいうちんうでうんとやすうぶりもひ
つ・おまうへまりうりうまれべ・ほのひて・ばうちぶ
まる・（添）てのうぶづくをぶりもひ
まくれ・（雷）やちぶのれうりうとうそ・いと
ちううう気をつくぶりのひちやまぶ（ふるやぶ）
まうんとまちんぶ心ぶうぶう・それや大系
空のり筆ま・（夜）うへをそぶりのそ・ぶうとめぶくく
おうぶうとちふまうへハのうりこと
もまりて・そぶもうぶまくのまぶそそれぶ
とちひてちん・ひうもまうぶまれをうぶのまへぶ

（夕）

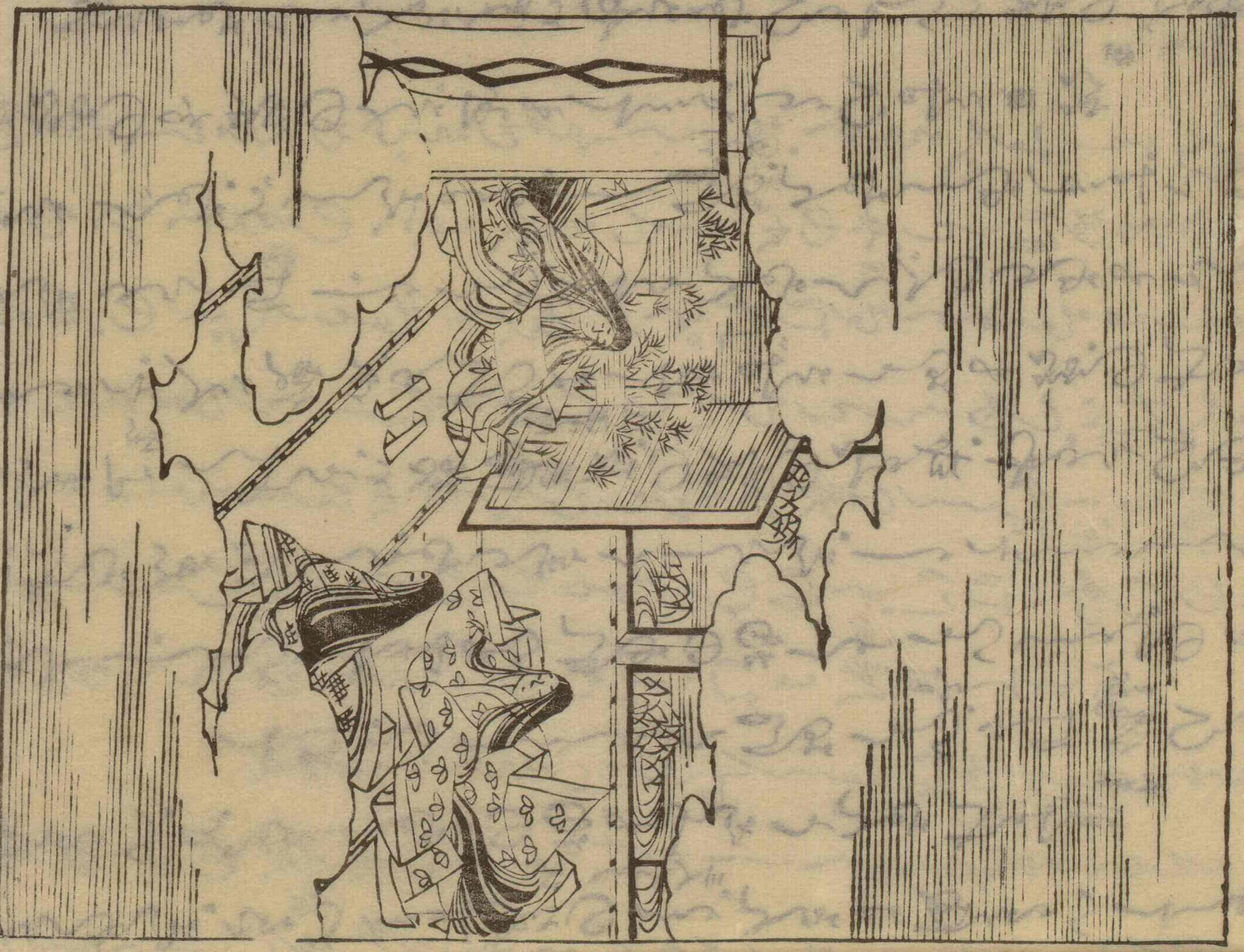
おもれどつねてそのがもろこと
おうもろこしのなかうちくよもやひごと
おもさ女中元れどこごろ
すぢの人ぶりは如
ゆづりつけ大ぞうのみぢうろぐん
くおぼ(ほ)ーをさうらくぐあろうと
ろりくおんろうぐ(ぶ)ろこの人の
ろうぬ(ぬん)ろうぬ(ぬん)ろうぬ(ぬん)
よの人ばぐ(ぶ)ぬ(ぬん)ぬ(ぬん)
おりて(訂)ぐもぐ(ぶ)
ゆひぐれぐ(ぶ)ぬ(ぬん)ぬ(ぬん)

今をのづからいでもおもひいちもんこと
わらはんおもひ給へやとつかれ給ふなと
りづやうられどもれうぞ（添ふ）
くくんのもとそうおもふこともおほまう
だいよりおもくわちけもまもりみおもぐま
いづくしくこころぐるしう給へとおもんとおぼ
すまでばこまやづくのすぢうそけぐやうもろ
まづくまづくれうおぼしをうらひとうも
給ひうれしくてかへりてのちうそくてれぐ
どめざのまて月そうぶうをよろうおんことと
あまべし十月ごろよりの給を

やうは、まだ、なう、人、よ、を、そう、なう、ず、う、
やす、（伯司ゆ伴之云之 入用ノ手）まいう、なう、は、ど、の、あ、う、そ、こ、肉
も、え、そ、あ、と、ど、う、
行、も、人、あ、よ、そ、ど、う、て、え、ま、う、う、ず、そ、そ、め
こ、を、ん、中、く、い、ず、ば、し、う、ど、う、
ま、こ、そ、な、つ、で、よ、や、な、ど、ま、こ、と、も
そ、ど、こ、そ、あ、や、い、ず、ま、つ、け、て、も、衣、を、が
ま、ん、ず、す、べ、や、は、あ、り、す、る、と、い、う、
う、そ、を、ひ、な、れ、ま、て、今、衣、な、ど、の、れ、も
る、ま、よ、こ、ろ、な、て、（女官ナヨヤカニ云ノ）、そ、逃、こ、そ
う、ず、ま、ま、ま、ま、の、人、ず

いうでうれうるひ
例のうもうでさとを
ひげぶたおち
ちおいこの中おと
よびうつかんごろ
をおうへ
ろうこ
おんとそ
こをいうへすべうん
こるこそ
おちをそこのもの
うつうぞ

指ひげたち中おち日あり
ひげまつ
ほ
兼香殺
ひげぶ
ほね
ひげぶ



69038
6AP78